

(公財)日本中体連における『リベロプレーヤーシステム』についての付則

2004年に中体連では『リベロプレーヤーシステム』についての付則を作成し、全国規模で周知・徹底を図ってきました。しかし、2012年度から高体連においても、一般のチーム同様の『リベロプレーヤーシステム』採用が決定しています。“従来通り”の表現では、混乱を招く恐れも生じてきたため、再度2004年の「付則」を見直し、資料の1つとして配付することにしました。

1. 試合開始前の手続き

(1) 記録用紙に関して

監督は、試合開始前、記録用紙に記載される競技者の中からリベロプレーヤーを指名し記録員に伝え、記録員が記入した後、チェックサインを記録用紙に記入する。
(リベロプレーヤーは、試合ごとに変更することができる。)

→ 記録員は、チーム登録として記載した12名の選手名にしたがって、監督から指名されたリベロプレーヤーの名前を転記する。その際、12名の選手名は消さない。
(==線や修正液を用いて、選手名を削除することはしない。)

(2) リベロ・プレーヤーの服装に関して

リベロプレーヤーは、チームの他の競技者と対照的な色のユニフォーム(ユニフォームのデザインは異なっていてよい)、または、ベスト(ゼッケンのようなもの：このベストは、高さ15cm以上の「L」の文字をつける)を着用しなければならない。また、リベロプレーヤーが2名いる場合は、他のチームメンバーと同様に、2名が異なった番号を付けるか、『ベスト』の色を変える必要がある。

→ ①対照的なユニフォーム・・・対照的とは「互いに対立する2つの要素がきわだつこと」であり、色の明るさに関係している。

※例えば、正規の選手のユニフォームの袖が黒、胸背部が白とした場合、リベロプレーヤーのそれが、袖が白で胸背部が黒というものは対照的とは言えず、認められない。

→ ②チームのユニフォームに関して、認められる例。

※正規のメンバーを1番～10番、リベロ2名が11番と12番とした場合。

1) 正規のメンバーが白、リベロ2名が赤。

2) 正規のメンバーが白、リベロ11番が赤、リベロ12番が紺。

3) 正規のメンバーが白、リベロ11番が赤のベスト、リベロ12番が黄色のベスト。

4) 正規のメンバーが白、リベロ11番が赤、リベロ12番が黄色のベスト。

<できれば、1)か3)が望ましい。>

→ ③リベロがベストを使用する場合：公式練習が終了してから、ベストを着用する。

2. 試合中

(1)適用される罰則について

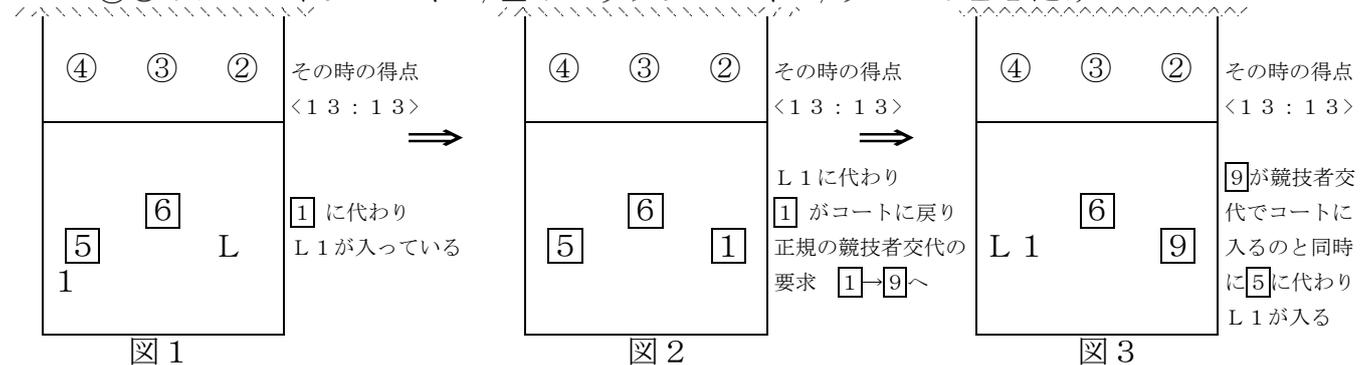
リベロプレーヤーは、ラリーの完了から次のサービス許可のホイッスルの前までに交代しなければならない。(サービス許可のホイッスル後に交代することは、拒否されないが口頭で注意される。同一試合中に繰り返した場合は、遅延の制裁の対象となる。)

- ①主審は、サービス許可のホイッスル前に、両チームの状況を正しく把握する必要がある。万が一、チームが5名あるいは7名になっている状況では、チームに正しいポジションになるように笛を用いて指導する。
- ②サービス許可のホイッスル後、サービスの実行前にリベロプレーヤーの交代が行われた場合⇒そのラリー終了後に、当該チームのゲームキャプテンを審判台の下に呼び、口頭で注意(「サービス許可のホイッスル後のリベロプレーヤーの交代は、遅延行為となる。この試合で再び繰り返せば『遅延の制裁』を適用することになる」旨)を与える。
- ③サービス許可のホイッスル後、サービスの実行後にリベロプレーヤーの交代が行われた場合⇒ポジションに関する反則を適用する。

(2)リベロプレーヤーの交代でよく起こるケースについて

リベロプレーヤーが交代してベンチに戻ったら、ワンラリー終了しないと、再び交代してコート内に入ることはできない。

- ①ベンチに戻ったらとは…コートに入るときに代わった正規の競技者と再び交代して、コートを離れることを意味しており、実際にベンチに座ることを示すものではない。従って、サイドライン近くで立って待っている場合も含まれる。
- ②○：フロントプレーヤー/□：バックプレーヤー/リベロ：L1だけ

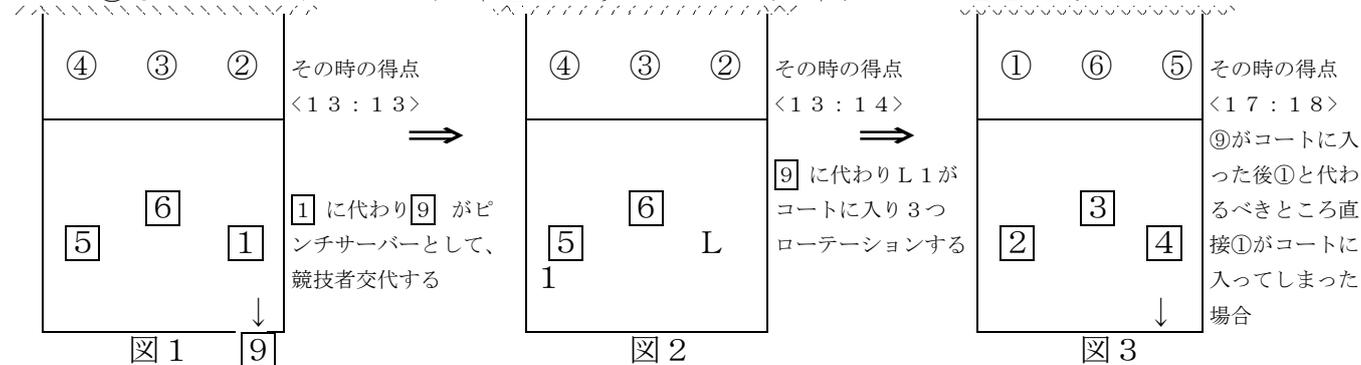


- * 13:13の時点で、既に①に代わりリベロ1がコート内にいる。(図1)
- * ①に代えて⑨をコート内に入れたいためにリベロ1と①を再び代える。(図2)
- * 13:13の同一中断中に①に代えて⑨の競技者交代を要求すると同時に⑤に代えてリベロ1がコート内に再び入る。(図3)

☆＜処置の仕方＞ 原則：リベロの反則はチームの責任である。

- i) アシスタントスコアラーの指摘は、中体連では教育的指導のために『サービス許可のホイッスル前』に行い、罰則を適用することなく訂正させる。
- ii) アシスタントスコアラーのいない場合で、主副審のいずれかが発見した場合も i)と同様に処置する。
- iii) 審判団が発見できず、サービスの実行後に発覚した場合は、ポジションの反則として処置する。
- iv) 審判団が発見できず、試合が続行した場合は、何の反則も適用しない。

→ ③○：フロントプレーヤー/□：バックプレーヤー/リベロ：L 1 だけ



☆＜処置の仕方＞ 原則：リベロの反則はチームの責任である。

- i) アシスタントスコアラーの指摘は、中体連では教育的指導のために『サービス許可のホイッスル前』に行い、罰則を適用することなく訂正させる。
- ii) アシスタントスコアラーのいない場合で、主副審のいずれかが発見した場合も i) と同様に処置する。
- iii) 審判団が発見できず、サービスの実行後に発覚した場合は、ポジションの反則として処置する。
- iv) 審判団が発見できず、ローテーションが繰り返され⑨がサーバーとなるべきところで、①がサーバーに出てきて、記録用紙から発覚した場合は、規則7.7.1・2に則り、罰則を適用する。

(3) リベロ・プレーヤーの交代する場所について

リベロプレーヤーおよびリベロプレーヤーと交代する競技者は、チームのベンチ前のアタックラインとエンドラインの間のサイドライン(現在は“リプレースメントゾーン”と名付けられている)からコートに出入りする。

- ①中体連では、1チームにつき最大限12名までの登録ができる。その12名のうちリベロとしての登録は0・1・2名のいずれかをチームが選択する権利を持っている。場合によっては、交代するときに相応する2組4名が規定の場所(リプレースメントゾーン)に立つことになる。このため、リベロチェックでの間違いが発生する可能性が高くなる。

このチェックミスを防止するために、リベロプレーヤーと相対する競技者は、必ずサイドライン上で一旦立ち止まる(つま先をそろえる)ように指導している。

☆一般(高校以上)の試合では、リベロの交代に際して2組4名がリプレースメントゾーンに並ぶことはない。(リベロ同士が交代することはある≠中体連ではリベロ同士の交代は認めていない。)

- ②サイドライン上で一旦立ち止まらずに交代してしまう場合の処置
- * その場でやり直しをさせたりせず、間髪入れずに「止まる」ように指導する。それができなかった場合は、ラリー終了後に当該チームのゲームキャプテンを呼び、口頭で指導する。(両チームとも同様の場合は、同時にゲームキャプテンの2人を呼び指導する)
 - * 指導後も繰り返される場合でも、罰則は与えず指導を行う。
 - * エンドラインから交代する場合も、同様に指導する。

<参考>

□ 枠は、2001年度の中体連取り扱いを基にし、2012年に加筆・修正したものである。

□ 枠は、2004年度版の(財)日本バレーボール協会競技規則の条文を示す。